



令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果・分析・対策<支笏湖小学校>

校長 鳴海 孝則

※本調査は、令和7年4月17日に6年生を対象に全国一律実施しました。



☆結果☆

【国語】

全国平均正答率 66.8%

⇒支笏湖小学校は、全国平均正答率にくらべて**相当低い**です。

【算数】

全国平均正答率 58.0%

⇒支笏湖小学校は、全国平均正答率にくらべて**相当低い**です。

【理科】 ※3年間に一度の調査

全国平均正答率 57.1%

⇒支笏湖小学校は、全国平均正答率にくらべて**相当高い**です。

☆分析・対策☆



【国語】

6年生の2人とも不正解だったのは、「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」である。

～今後の対策～

- ①目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるようにすること。
- ②書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考慮することができるようにすること。
- ③漢字を覚えるのにただ闇雲に覚えさせるのではなく、『漢字成り立ち辞典』などを活用して楽しく覚えさせていくこと。
- ④目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるようにすること。記述問題では、5年生から練習をしてきたおかげでマスを埋めるレベルにまで到達した。今後は、意欲的に取り組むような指導を考えていく。
- ⑤学習用語を日常的に扱い（黒板に常時パーツで貼っておき可視化するなど）、さまざまな段階で活用させていくこと。

【算数】

6年生の2人とも不正解だったのは、「数と計算」、「測定」、「データの活用」である。



～今後の対策～

- ①データの特徴や傾向から導いた結論について、表から根拠となる数に着目できるようにすること。
- ②分数の加法について、数の表し方の仕組みや数を構成する単位に着目し、共通する単位分数を見出すことで、整数の加法に帰着して考察できるようにすること。そもそも、分数の意味や表し方を理解できるようにすることが重要である。
- ③日常生活において、ある数量を調べようとするときに、それと関係のある数量を見出し、それらの数量の関係を把握して、問題を解決できるようにすること。日常生活で、「10%増量」「30%引」などの百分率が求められている場面において、倍を使って捉え直し表現できるようにすることが大切である。
- ④学習用語を日常的に扱い（黒板に常時パーツで貼っておき可視化するなど）、さまざまな段階で活用させていくこと。



【全学年としての目標と具体的方策】



□個に応じた学習指導の充実を図る

- ① 全国学力・学習状況調査とNRT 教研式検査の結果もとに、個の課題に明確に対応した指導を充実させる。「トライ＆エラー」サイクルを働かせ、講じた手立てが有効なのかを**迅速に検証し改善を図り、全教員で共有**する。
- ② 苦手領域の単元を洗い出し、全学年、重点単元として指導する。
- ③ 教科担任制による個に応じた指導を充実させる。（5・6年生の社会科等）
- ④ ICTを効果的に活用したり、『「対話」の広がり』を充実させたりしながら、授業改革（担任の意識改革＋授業改善）を推進する。
- ⑤ 複式スタイルを研修（自校・他校問わず）し、いつ複式になってもいいように「主体的」に学習できる児童を育成する。

□学習習慣・規律の定着を図る

- ① 家庭と協働し、家庭学習・宿題の取組を推進する。※ミライシードドリルパーク（AIドリル）の継続的な活用、**『家庭学習強化週間 10/5～10/18』**
- ② 全校朝学習での漢字や話す力等の取組を継続し、基礎学力を定着させる。
- ③ 全職員がどのクラスに入っても引き継いでも、同じ指導ができるよう、学習規律の徹底を図る。

□学習の質を高めるための授業改革をすすめる

- ① 本時の課題と教師の発問を児童にしっかり理解させる。（『主体的な学び』につながらない）
- ② 子供中心の『「対話」の広がり』を取り入れた授業を行う。
- ③ ICTを効果的に活用する。（他校との遠隔ライブ授業、遠隔オンデマンド授業、ミライシード、生成AI等）
- ④ 研修時に、各学年の基礎学力の定着状況と効果的な指導方法の交流
- ⑤ 地域の人的・物的教育資源を生かした“社会に開かれた教育課程”を編成し、ふるさとを知り、気づき、深め、発信することを通して伝え合う力を高める。

